

AV ドーナツの効果(3)(HP 収載)

ーアースアキュライザーー

1. 始めに

前報(2)に引き続き、AV ドーナツの効果を検討します。

2. AV ドーナツの試聴計画

前報(1)で述べたように AV ドーナツの適用に関する制限を回避できるケーブルの箇所はあまりありません。それと言うのも、バランスケーブルを多用し、機器のポートが近接しているものが多いためです。そこで AV ドーナツの適用できるものを探索した結果、今回は、Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal E との接続に使用している、アースケーブルであるアースアキュライザーに適用してみました。



音源は下記を使用します。

アナログ

Archiv 28MA 0020

J.S.バッハ チェンバロ協奏曲集

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

STAGE+

フレデリック・ショパン 《幻想即興曲》嬰ハ短調 op. 66

辻井伸行 (ピアノ)

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

フランツ・リスト ピアノ協奏曲 1 番
エフゲニー・キーシン (ピアノ)

放送録画 (DMR-UBZ1 HDD 保存)

J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ
ファビオ・ビオンディ (ヴァイオリン)

3. AV ドーナッツの試聴結果

アースアキュライザーとしては、Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal E との接続に使用しているアースアキュライザーを選定し、アースアキュライザーを AV ドーナッツに通してみます。なお、A サイド、B サイドのどちらを信号の上流側とするかについては、前報(1)と同様にしています。

バッハのチェンバロ協奏曲は、LP-12からの再生で、フォノイコライザーの ZANDEN Model 120 と Crystal E との接続およびフォノイコライザーからの LINE 入力の Brooklyn DAC+ともう 1 台の仮想アース Crystal E との接続にそれぞれアースアキュライザーを使用することにより、アナログとしては非常にきめ細かいディテールの再現に長けた再生になっていると認識していましたが、後者のアースアキュライザーを AV ドーナッツに通すことにより、バロックアンサンブルやチェンバロの音の焦点が一段と向上しました。

ショパンの《幻想即興曲》は、アースアキュライザーによる Crystal E との接続により、辻井伸行の弾くスタンウェイらしさがリアルになったと思っていましたが、AV ドーナッツを通ことにより、さらにスタンウェイらしい切れの良さがでてきました。リストのピアノ協奏曲 1 番は、アースアキュライザーによる Crystal E との接続により、音の焦点が定まったと思っていましたが、AV ドーナッツを通ことにより、もう一段オーケストラの音の焦点が合い、ピアノの響きがクリアになってきました。

バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、アースアキュライザーによる Crystal E との接続によりビオンディの弾くガダニーニの音の精度が上ったと喜んでいましたが、AV ドーナッツを通ことにより、もう一段精緻な音になったという印象です。

4. まとめ

Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal E との接続に使用しているアースアキュライザーを AV ドーナッツに通す効果を認めました。

以上

